

## 美學會第二回全國大會記事

銀杏の金色に映え、菊花の匂ひ漂ふ風情を藉りて、年々、地を東に西に交互に渡り、そこに全國斯學研究者の面々、會員諸氏、各々香車を連れて、一堂に會さんとする美學會全國大會は、昨年度の京都につゞき、本年は東京において、左の日程により、東都會、特に東京大學美學研究室の盡力によつて第二回の盛筵を有意義裡に終始した。

第一日—十一月九日(金)

總會及び懇親會(午前九時半) 於東京藝術大學正木記念館

上野の森のいかにも快い朝明けが不忍池の水の面にくつきりと秋空をてらし出す。少しく寒々とした會場の東の窓邊に搖ぐ落葉のシルエットは一人眼に泌みた。やがて參集した百餘の會員、車座狀に居並ぶ間に、東大助教授竹内敏雄氏が起つて總會挨拶。美學會昨今の輝かしい足跡と、機關誌「美學」の現狀について述べられる。幹事より會計その他の事務報告。つゞいて懇親會にうつり、茶を喫しながら、上野直昭顧問を始め研究者の重鎮諸氏より隨時スピーチのテーブが放たれる。そのテーブの様々な色や形や音の波打つこゝ會場の一室に、文字通り全國的な美學研究者の塵卷が現示される。開催地が西から東へ最初の周期を一應完結した事により、東北、北海道の多數の會員と

新しく交り得たことは、やはり五彩を一層華かにするものであつた。然し、京都の植田壽藏、東北の阿部次郎兩顧問の御不參は誠に残念であつた。

午後に入つて、同記念館別館において、本大會の爲に東京藝術大學所藏美術品の特別展覧が行はれた。

研究發表會第一部(午後一時半) 於東京藝術大學會議室

(司會—檜崎宗重委員)

京大教授井島勉氏、先づ開會挨拶並びに講演をされ、從來の美學研究の趨勢に鑑み美や藝術の歴史性的の問題への追究が必要である旨、その卓見を披瀝されて、今後の研究が進むべき方向に多大の示唆を與へられた。

○「黄金截」原理について 早稻田大學 青柳 正廣氏

Scutio Aurea 原理を、ポイムラー及びツァイジングの思想體系に則つて、單なる形式美の完全性の意味に留らず、象徴における内質思惟に發する美學的反省の一環として詳細に論述せられた。

○作品構造の一考察 東京大學 石川 公一氏

普通に内容形式の複合的相關々係においてその構造が考察される藝術作品を、存在の面より多角的な位層構造の分析をし、更に存在の仕方そのものとの結合において現象學的考察をより徹底させ、作品構造を人間の生の全體性との有機的關聯の中に把握せんとする眞摯な研鑽の過程を披瀝された。

○三十二相の蘇演について (レコード使用)

京都藥科大學 片岡 義道氏

元來、聲明と雅樂の大規模な協奏曲である「三十二相」の構成は、その歴史的重要性にも拘らず、各種の資料に統一を缺き、爲に蘆演に幾多の困難があつたが、發表者は東洋音樂に對する深い造詣と洞察によつて、大原流聲明及び散吟打毬樂双方の拍子を調整し、自ら演奏を試みられ併せて音樂史的問題解決の示唆を開陳せられた。

#### ○構想力の場とその周囲

京滬大學 北島 常造氏

かつて「美學」第三號に發表されたカント美學の核心に觸れる構想力の構造に關し、その意義を一層論理的に究明しつゝ、藝術創造的作用的統一の場への展開として、表現力の構造との深い關聯に鋭鋒を向け、氏自らの立場を明確に表示せられた。

#### ○戯曲に於けるモノローグの考察

大阪學藝大學 小島 元雄氏

戯曲の本質論に關する考究から、ディアローグの他に、その表現形態としてのモノローグの可能性を基礎づけ、戯曲發生期から存続したモノローグ形式の歴史的事實に鑑み、不當に等閑視されてゐる近代劇の將來にとつて當該問題の再検討の必要を喚起され、豊富な例證を提示しながら、明快な論證を行はれた。

#### 第二日十一月十日(土)

#### 研究發表會第二部(午前九時) 於東京大學附屬圖書館

(司會—谷田開次委員)

#### ○藝術史的理解

東北大學 西田 秀穂氏

所謂形式史的立場からの「表現」、並に精神史的立場からの「表

出」が藝術の本質的契機でありながら、なほ兩者の藝術史解釋は自律的美術史の十分な確立とは認められず、遂に「藝術意志」の問題に根本的解明を與へることが要請される。氏は、カント、シュライエルマツハア、クレーン、フィードラアの美學に理論的根據を置きつゝ藝術史的理解の核心を究明し、併せて自律的美術史の在り方に言及された。

#### ○文藝史における作品の位置

東京大學 針生 二郎氏

文藝史における作品の存在形式の構造を深く考究せんとする氏は、現象學派の言語藝術に關する諸構造分析論の統一を試み、更に最近の質存哲學的所説にも耳をかたむけつゝ、高次なる生の基盤に占める文藝作品の獨自な位置を精細に論述解明された。

#### ○フェノロサについて

東京學藝大學 久富 實氏

フェノロサ研究の最近の進展に、見るべきもの多しとはいへ彼の日本來朝以前に關する研究は、後年かの近代日本美術の形成に與つて方あつたフェノロサを一層浮彫するに役立つであらうとの興味ある發表がなされた。

開會挨拶並びに講演は東北大学教授村田澤氏が、現代美術の性格を、西洋美術史發展の系譜から明快に論證され、その組織を傾けての高説は二日に互る研究發表會の掉尾を飾るに相應しいものであつた。

#### 公開講演會(美術史學會と合同)(午後一時)

於國立博物館大講堂

#### ○わが國美學の過去と將來

東京學藝大學 村田 眞策氏

○現代フランス美術

東京藝術大學 吉川 逸治氏

○大徳寺五百羅漢圖の一考察

福井利吉郎氏

○フランス藝術映畫上映(ゴッホ、シャトーブリアン等)

第三日—十一月十一日(日)

室町水墨畫の所藏で有名な靜嘉堂の見學は、武蔵野の小春日に、一層の好趣を呼んだ。馬遠、夏珪、梁楷、牧谿、周文、薛啓等々、一連の中國及び日本水墨畫の山水名筆には瞠目するばかり。盡きざる藝術的感興はやがて喜色滿面の參會者一同相互の温情に通ひ、名残を惜しみつゝ、郊外の午さがり、刈入れの

前 號 目 次

質存哲學、ニーチェの哲學、…… 武市 健人  
西田哲學  
— 歴史的唯物論の意味の探究のために —

個體性的問題(未完)…………… 金子 榮一  
— ナートルブ研究 —

グラープマンとジェルソン(高田三郎)

すんだ黒い沃土をしつかり踏みしめながら、夫々、西に東に散會していった。(上平)

大阪大學哲學茶話會

一、昭和廿六年十月廿日

「社會學の方法について」 阪大助手 領家 穰

一、同 年十二月八日

「カントの先驗的統覺について」 阪大助手 高橋 昭二

波多野精一博士追悼號

波多野宗教哲學の立場…………… 片山 正直  
— 未定稿「波多野宗教哲學」第一卷 —

波多野宗教哲學とシユライ…………… 濱田 與助  
エルマツヘル

ヘブライ思想に於ける神と智慧…………… 有賀鐵太郎

波多野精一博士の人と學問(石原 謙・山谷省吾・  
西谷啓治・田中美知太郎・松村克巳)

次 號 豫 告

寄贈雜誌論文目次 (受領順)

文學研究 (九州大學文學部内 九州文學會) 第四十輯(十一月)

- 歌集「みだれ髪」を論ず 小島 吉雄
- 藝術學・藝術史における「没價値性」の意味 高橋 義孝
- 「ゾエバ」の一文を中心にして 前川 俊一
- ブライアリス「環境の徒」について(上) 目加田 誠
- 文心離散(三) 進藤 隆一
- マダム・ド・ロングツイルの生涯 永田 英一
- スタール夫人「ルソー」についての書簡 岡松 孝二
- ニーチェについて 中山竹二郎
- ウエイクフィールド劇 福田 良輔
- 「第二洋風の段」(試譯) 吉町 義雄
- 奈良朝時代軍國方言の成立について(下)
- 對馬字引「日暮芥草」府中語抄

人文學 (同志社大學人文學會) 第四輯(一月)

- 全體社會と社會學の全體的对象としての變動期における社會の倫理 江藤 則義
- 社會前段の研究における問題 青井 厚
- 社會主義の英國的環境 竹中 勝男
- 社會的行爲に關する考察 鶴木 眞
- 海外新聞とシェン・ヤン 住谷 申一
- 日本低賃銀論 中條 毅
- Some Basic Principles of Case Work Practice Mary F. Wood
- Problems of Social Group Work in Japan Jean H. Grant

史學雜誌 (東京大學文學部内史學會) 第六十輯第一號(一月)

- 滿鮮古代における支石墓社會の成立 三上 次男
- 北東アジア古代社會の一形態 榎田 四郎
- 中世初期サクセンの掌族制について 井上 光貞
- 古代佛敎思想史研究の動向
- 古代國家の成立・動搖と佛敎
- 國語國文 (京都大學國文學會) 第二十卷第一號(一月)
- 「其」故 佐伯 梅友
- 旋頭歌歌 清水 克彦
- 榮求と奈良朝文學 水野 平次
- 萬葉集「本名」考 吉永 登
- 萬葉集「左名」考 木船 正雄
- 「此の城の山」考 木田 義雄
- 入縣呂集訓詁二題 瀧邊 久孝
- 經濟學 (大阪商科大學經濟研究所) 雜誌 第二十四卷第一・二號(一月)
- 統計調査論序説 森下 二次也
- 一推計學批判への一つの疊書
- 宗教研究 (日本宗教學會) 第一二四號(二月)
- 善導の念佛三昧に就ての一考察 色井 秀壽
- 靈田思想の發達とその意義 早島 鶴正
- 地邊信仰について 和歌森太郎
- 史學雜誌 (東京大學文學部内、史學會) 第六〇輯第二號(二月)
- 近世における村の財政 兒玉 幸多
- 宋初の衙前について 河上 光一
- 古代家族の變質過程 宮川 瀧
- ドイツ歴史學界の現況と今後の課題 成瀬 治

美學 (美學會) 第四號(二月)

- 美的圖照と美意識の構造 園 頼三
- 禮體の問題 徳水 郁介
- 造形理想の一系譜 谷田 関次
- 一定藝術的論議 山本 正男
- アポロンのとテイオニウスの 山本 正男
- 一藝術的體系性と歴史性との問題 上野 直昭
- 大塚保治博士の思想
- 文立命館 (立命館大學人文科學研究所) 第七十七號(二月)
- 日本文學特輯
- 轉換期における文藝の一様式 林原辰三郎
- 一近世都市の成長と福澤文學 土橋 寛
- 一徳建命御歌の原歌 田中重太郎
- 枕冊子成立試論 法橋 理知
- 假名垣藝文の作品

山口經濟學雜誌 (山口大學經濟學會) 第一卷第三號(三月)

- 貨幣價値の質的問題 奥田 唯輔
- 社會の必要労働の意義 相澤 秀一
- 重農主義の形的考察 高木 直助
- 賃金の國民的利益の認識 岡倉 伯士
- ケインズの物價理論(その二) 安田 充
- ヒックスの價値と資本について 木藤 正則
- 生産擴張生産期間に關する小論 濱田 錦夫
- ダニエル・デブヤウと英國商業 高橋 忠七
- 法社會學の課題 不破勝哉夫
- アジア工業化論 上妻隆榮
- 近代に於ける商業の一考察 西島 蕪此
- 福利厚生施設に關する調査 藤原 和俊
- 勞働科學の方法論 瀧見 實

經營に於ける對立と統一  
 名西 儀一  
 哲學雜誌 (東京大學文學部内哲學會) 第七〇九號 (三月)

解脫と涅槃  
 一特に近代世界學者の涅槃研究  
 宮本 正吾  
 緣起觀展開の契機  
 坂本 幸男  
 自證と自己認識  
 川田 徹太郎  
 一比較哲學の一つの試み  
 上田 義文

中論における相聞性の論理について  
 一第十章「火と燃料との考察」の研究  
 山崎 次彦  
 空と論理に関する中觀二經の論争  
 一梵文、月稱、中論註第一卷  
 中村 元  
 「經の考察」の研究  
 山口 益  
 インド教と世俗内的倫理  
 コーロパツに於ける最近十一年間の佛教の實情  
 山口 益

一巴里大學教授マルセル・ラル女史の報告  
 山口 益  
 經濟學 (大阪商科大学經濟研究所) 第二十四卷第三號 (三月)

雑誌  
 ロック政治理論の妥協的性質について  
 山崎 時彦  
 「貨幣理論におけるA、ミス問題」の解題に當りて  
 徳古庵武夫

山口大學經濟研究所報 第一卷第一號 (三月)  
 ドイツ職業統計の一考察  
 坂田 太郎  
 出口と下関  
 高木 眞助  
 一都市社會學的考察

山形大學要 (山形大學) 第三號 (三月)  
 ファインゲルの「假構」の理論について  
 坂本都留吉

ルソウの平和論  
 一そのサン・ピエール批判を中心として  
 村岡 哲  
 フレリカにおける「行政機構」による立法について  
 新開 寛夫  
 一權力分立制の一研究

史學雜誌 (東京大學文學部内史學會) 第六十編第三號 (三月)  
 禪學研究 (花園大學内禪學研究所) 第四十二號 (三月)

宗教的方法の問題 序説  
 研究對象としての佛教  
 久松 義一  
 一言葉及び概念からの體解  
 小笠原秀實  
 足利義輝の禪宗信仰に就て  
 玉村 竹二  
 五山に投影したる中國文化  
 萩原 延道  
 一特に思想に就いて  
 臨濟録に関する新見解  
 一臨濟録札記抄(一)  
 萩原 延道

一橋論叢 (東京商科大学一橋學會) 第二十五卷第三號 (三月)  
 ジェームス・ステュアートとその財政論  
 木村 元一  
 J・S・ミルの社會主義觀  
 杉山 忠平  
 社會保險の社會性  
 大林 良一  
 比較經濟學の基礎理論  
 久武 雅夫

哲學年報 (九州大學哲學研究所) 第十一輯 (三月)  
 デカルト「名象録」研究(中)  
 瀧澤 克巳  
 漁村の労働關係とその社會的基礎  
 内藤 浩爾  
 心・自由・神  
 習田 運夫  
 ヘーゲルの體系と精神の論理  
 山本 浩幸  
 三性説論  
 大野 義山  
 デカルトにおける「觀念のレアリタス・オブ・エクティブル」について  
 猪城 博之  
 超越的感性論における現象概念について  
 今村 茂

基督教 (同志社大學内基督教研究所) 第二十五卷第一號 (四月)  
 宗教改革者マルティン・ルターの論  
 矢山 寛  
 信仰義認に就て  
 一ロマ書研究II  
 小田 賢  
 アレクサンドリアのクレメンスの倫理思想  
 平石 善司  
 カール・バルトのシユライエルマツヘル論  
 緒方 鍾雄  
 舊約外典概論(II)  
 マタイ傳註解(IV)  
 エゼキエル書講解(IV)  
 イ・エス・カープ  
 富澤 京次  
 山崎 京

一橋論叢 (東京商科大学一橋學會) 第二十五卷四號 (四月)  
 フランス社會思想特集  
 根岸 四孝  
 啓蒙哲學と草農主義  
 ヴォルテールにおける近代の歴史概念的構造  
 高橋 安光  
 フランソワ・モーリヤツクにおける文學と罪  
 青木 雄造

國語國文 (京都大學國文學會) 第二十卷第三號 (四月)  
 言葉の紐  
 小田 良弼  
 文學的言語の集斂  
 井島 勉  
 一文學的研究に關して

讀書春秋 (國立國會圖書館内春秋會) 第二卷第四號 (四月)

讀書春秋 (國立國會圖書館内春秋會) 第二卷第四號 (四月)

讀書春秋 (國立國會圖書館内春秋會) 第二卷第四號 (四月)

讀書春秋 (國立國會圖書館内春秋會) 第二卷第四號 (四月)

讀書春秋 (國立國會圖書館内春秋會) 第二卷第四號 (四月)

讀書春秋 (國立國會圖書館内春秋會) 第二卷第四號 (四月)